

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 鬼ヶ島を訪ねる

講師 大嶋和則（高松市文化財専門員）

平成24年10月28日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市教育委員会

1 女木島

高松港の沖約四キロメートルに位置し、総面積は二・六七平方キロメートルの南北に長い島です。島の中央東部に小規模堆積平野が見られるほかは大部分が傾斜地です。島の基盤は花崗岩で、その上部に凝灰岩、頂部は安山岩・玄武岩となっています。

島名の由来に関しては、いくつかの説があります。北隣にある男木島と合わせて二つの島を男女に見立てて、「オギ」の「オ」に対応するものとして、「メギ」の「メ」がついたとされます。この場合、「ギ」は木の多いことを意味する「木」や、防御地や城を意味する「城」^キが転じたものとされています。また、源平屋島の合戦において、那須与一が射落とした扇が流れ着いたことから「オウギ」が転じて「オギ」となり、壊れた（めげた）扇の親骨が流れ着いたことから「メギ」となったとする伝説もあります。昭和五年（一九三〇）に橋本仙太郎氏が洞窟を発見し、桃太郎伝説と結びつけ、鬼の住処であると大々的に発表したこと、別名「鬼ヶ島」とも呼ばれています。

女木島では、弥生土器の出土が知られるほか、女木丸山古墳など数基の古墳も存在することから、古代から人が住んでいたようですが、詳細は不明です。

中世になると、寛元四年（一二四六）に香西家資が直島つひしよの京の上臈島うわすま付近で海賊を捕ら

え、鎌倉幕府に差し出した功により直島付近の支配権を得た時、直島に高原氏を置いたとされます。この高原氏がいつ頃から女木島・男木島を領有していたかは不明ですが、天正十年（一五八二）の豊臣秀吉による備中高松城攻めの際には、海上警護の任に当たった高原久右衛門次利に直島・男木島・女木島の支配を任せています。天正十四年、秀吉の九州出兵において、讃岐の仙石秀久が豊後戸次川へつぎの戦いに大敗した際に、高原左衛門、その子佐助、その弟文左衛門らが海岸に殺到した兵士を助けて無事帰国させています。

二代佐助次勝は関ヶ原の戦い以来徳川氏に従い、直島・女木島・男木島の六百石で旗本に取り立てられました。三代二郎右衛門直久は寛永四年（一六二七）から隔年で江戸に詰めるようになり、江戸屋敷や江戸への道中に多くの出費が必要になりました。寛永六年には領内の検地を行い二千石となりました。その後、徳寿、内記仲昌、数馬と六代続きましたが、寛文十一年五月に前当主仲昌が、当主で養子の数馬を養父母に不孝であると幕府に訴え出たところ、家内取締不行届として同年十二月二十八日に改易されました。高原氏改易後は、天領や高松藩領になるなど支配の交代を経ながら明治に至りました。

明治四年（一八七一）の廃藩置県により、倉敷県に編入されましたが、直後に丸亀県に編入され、同年のうちに高松県と丸亀県が合併し、香川県となりました。明治二十三年（一八九〇）には男木島とともに町村制を施行し、香川郡雌雄島村が成立しました。その後、

昭和三十一年（一九五六）の合併により高松市女木町となりました。

2 オーテ

女木島の東側の集落である東浦では、冬季に北西の季節風が山頂にあたり、方向を変えて吹き下ろしてきます。島の人はこの風を「オトシ」と呼びます。海岸沿いの家は波しぶきをかぶり、さらに霧状となった海水が家の中まで入ってくるのを防ぐために家を東向きに建てて、妻側にあたる南側に屋根の高さほどの「オーテ」と呼ぶ石垣を築いています。自然的要因から形成されたものであり、周辺の島にはこのような施設は見られず、女木島独特の集落景観を形成しています。いつ頃から作られ始めたかは定かではありませんが、江戸時代頃から作られ始めたと言われています。



オーテ

一辺が三〇〇センチ程度の石を用いて築かれており、幅約二〜五メートル、高さ一〜四メートル、長さ一〇〜二〇メートルです。その総延長は約五〇〇メートルにもおよびます。家二軒分程度ごとに集落内へ入るための路地が見られ、路地入口から五〜一〇メートル奥までは石垣が築かれています。

古老の話では、昭和初期まではオーテの前面には砂浜が広がっており、オーテは高波の際の防波堤の役割も果たしていたそうで、石垣の前面には波による侵食を防ぐため、一〜二メートルの幅で捨石による補強がされていたそうです。現在はオーテの前面は埋め立てられ、女木港が整備され、根石の状況は不明ですが、現状より約一〜二メートル下まで石垣が続いていたと考えられ、本来のオーテの高さは五〜六メートル程度あったと推定できます。また、使用されている石材から古くは島内の安山岩を用いて築いていたと考えられますが、昭和になって積まれたものには庵治の花崗岩も使用されています。



オーテの路地

3 西尾末広

にしおすえひろ

女木島出身で、十四歳から各地の工場で働き、労働運動に身を投じ、大正八年（一九一九）に友愛会に入り、大正十五年には社会民衆党の結成に参加しました。昭和三年（一九二八）の第一回普通選挙で社会民衆党から立候補し、初当選しました。昭和七年以降は社会大衆党に所属し、幹事に就任しました。昭和十三年三月十六日、衆議院本会議における国家総動員法案の審議に際し、同法案を支持する立場から、近衛文麿首相に対し「ヒトラーのごとく、ムッソリーニのごとく、あるいはスターリンのごとく、確信に満ちた指導者たれ」と激励しました。全体主義的独裁者への共鳴を示したものでしたが、政友会・民政党の両党によりスターリンの名を肯定的に挙げた部分が問題とされ、衆議院で除名決議において議員を除名されました。

昭和十五年三月、斎藤隆夫が行った反軍演説の議員除名問題では、反対の立場を示し衆議院本会議を欠席し、社会大衆党書記長麻生久による幹部除名策略によって党除名処分を受けました。昭和十七年の翼賛選挙では非推薦で当選しましたが、翼賛政治会や大日本産業報国会と距離を置き、密かに東條英機内閣の倒閣運動にも加わったことから、戦後の公

職追放を免れました。

昭和二十年の政党復活では日本社会党に所属しました。昭和二十二年に社会党が第一党となり、片山哲内閣が組閣された際には、内閣官房長官として入閣しました。翌年の芦田均内閣では副総理に就任しましたが、土建献金で証人喚問を受け、副総理を辞任しました。社会的な非難を受けましたが、無罪を勝ち取っています。その後昭和二十七年、衆議院議員に返り咲きました。

昭和三十四年の参議院選挙で社会党が敗北し、党内に社共共闘の主張が広がると離党し、社会クラブを結成し、さらに昭和三十五年に民主社会党を結成し、初代委員長に就任しました。安保国会では、社共両党と同様に反対姿勢で取り組みましたが、安保以外の予算案や政府自民党案に同調する構えを見せました。新安保条約の自然発効後、自民党の福田赳夫から、岸信介の後継首相への誘いを受けましたが、西尾が断つたため幻となりました。その後も、昭和四十年に、自民党と共に日韓基本条約を強行採決するという荒業を見せるなどしました。

昭和四十七年に政界を引退し、昭和五十六年に九十歳で永眠しました。

4 八幡神社

伝えによれば、神功皇后が朝鮮半島出兵の帰途、女木島の西方で強風となったため、島の南東の湾に船を留め、島に上陸し、住吉大神を奉祀し海路の平安を祈願したとされます。その後、島民が皇后上陸の地に祠を建てて八幡大神を奉賛して産土神とし、皇后の奉祀した住吉大神を祀り、海上守護の神としたと言われています。

当初は現在の社殿の西方一〇〇メートル余りの場所にありましたが、その後、湾は埋もれて砂浜となり、元和五年（一六一九）に領主高原佐助によって現在地に遷座されました。寛永十

五年（一六三八）に高原直久が社殿を修理したほか、大正七年（一九一八）に拝殿の改築および上幣殿および神饌書を新築した記録があります。

祭神は中哀天皇、応神天皇、神功皇后です。



八幡神社

5 住吉神社

八幡神社の境外末社で、祭神はうわつつのおのみこと なかつつのおのみこと そこつつのおのみこと
表筒男命、中筒男命、下筒男命です。
慶長九年（一六〇四）に領主高原次利が社殿を改築、その後も高原佐助により元和十年（一六二四）、高原仲昌により寛文三年（一六六三）に改修等が行われていきます。高原氏改易後、高松藩領となると、松平氏の尊崇も篤く、正徳三年（一七一三）および元文四年（一七三九）に改修が行われています。
住吉神社には太鼓台が海に入るという珍しい祭りがあります。この祭りは三十二条からなる「若中規約」という規約に基づいて行う事になっています。



住吉神社

6 女木丸山古墳

女木島の鷲ヶ峰とツツコ山との鞍部（標高約九〇メートル）に所在します。古くから平家の塚としての伝承がありました。昭和三十九年（一九六四）に鬼が島観光道路補修工事の際して、工事用土砂を塚から採掘した際に、箱式石棺を掘り当てたことにより、発掘調査が行われました。

既に古墳の盛土の大半がなくなっていますが、直径約十五メートル、高さ一・八メートルの盛土円墳で、拳大の玄武岩の角礫を用いた葺石が全面にあつたと推定されています。主体部は組合箱式石棺で、内部の長さ二・八メートル、幅五二センチ、深さ二八センチです。



発掘調査中の女木丸山古墳

副葬品としては、全長三・八センチの純金製垂飾付耳飾一对、長さ一〇六・一センチの鉄製太刀一点、長さ二三・一センチの鉄鎌一点がありました。古墳時代中期後半（五世紀後半）頃の古墳と考えられます。出土した耳飾については、朝鮮半島からの舶載品であり、当古墳の被葬者が海上交通を掌握していたことがうかがえます。

このほか、女木島には鷲ヶ峰の北側尾根の突端で、組合式箱式石棺から碧玉製勾玉一個が出土した中戸古墳が知られています。



女木丸山古墳出耳飾



女木丸山古墳検出箱式石棺

7 鬼ヶ島洞窟と橋本仙太郎

大正三年（一九一四）秋、大隈重信が鬼無駅で「この駅はオニナシかと思えば、キナシと読むそうだ。なかなか面白い地名だと思う。とにかく、村人諸氏は地名のそのように何とぞ心の中に鬼が無いように、個人も団体も皆ますます向上発展に努力されたい」と演説を行いました。上笠居小学校（現在の鬼無小学校）の訓導（現在の小学校教諭）として赴任していた橋本仙太郎は演説に感銘を受け、それを機に郷土研究の道を歩み出しました。地名の考証や、考古学的な研究等を行い、昭和五年（一九三〇）に女木島で人工の洞窟を発見しました。この洞窟を桃太郎伝説と結びつけ、鬼の住処であると大々的に発表しました。それが「高松の桃太郎伝説」です。

なお、橋本仙太郎によると、香川県の桃太郎は、まびつひこのみこと吉備津彦命の弟のわかたけひこのみこと稚武彦命がモデルで、吉備から讃岐に来た時、土地の住民が鬼（海賊）の出没で苦しんでいるのを知り、イヌ・サル・キジを率いて鬼を征伐したとされています。イヌは岡山県の犬島、サルは陵南町の陶の猿王、キジは鬼無町の雉ヶ谷に住む勇士で鬼が住んでいたのが女木島で、桃太郎が鬼を退治して鬼がいなくなったことから「鬼無」という地名になったと言われています。

この鬼の住処とされる洞窟は、実際には凝灰岩の採掘坑です。同様の凝灰岩は豊島で多く採掘されており、豊島石として有名ですが、小豆島東部の土庄町滝宮、男木島、女木島、屋島北嶺にも分布しており、そこには石材の採掘跡が洞窟となつて残っています。豊島石系の凝灰岩は、現在讃岐層群安山岩溶岩に覆われた所だけが保存されています。この安山岩溶岩は硬質なため、山頂部で崖が形成されることから、凝灰岩を採掘するには、崖の下から坑道掘りをせざるをえないことから坑道掘りされたと考えられます。

女木島の凝灰岩がいつごろから採石されたかは不明ですが、豊島石系の凝灰岩の製品は十五世紀中頃から見られます。また、豊島では近年まで採石が行われ、屋島でも昭和初期までの採石の記録があります。このことから女木島でも中世後半から近代にかけてのいずれかの時期に採掘が行われたと考えられます。



凝灰岩採掘坑跡（鬼ヶ島洞窟）

8 柱状節理

女木島は、標高一三〇〇～一五〇メートルまでは花崗岩を基盤として、一四〇〇万年前頃におこった激しい火山活動で噴出した溶岩によってできた安山岩・玄武岩によってできています。

鷲ヶ峰山頂部の讃岐岩質玄武岩も溶岩によるもので、特に洞窟の入口右上方と出口上方において、五角柱状や六角柱状の岩塊が並んでいます。これを柱状節理と呼んでおり、溶岩が噴出し、冷却・凝固する時に収縮してできたものです。

また、付近には直径四〇センチくらいの球状の岩塊があり、球面に沿ってタマネギの鱗葉の重なりのように見え、玉葱状節理と呼んでいます。



女木島の柱状節理

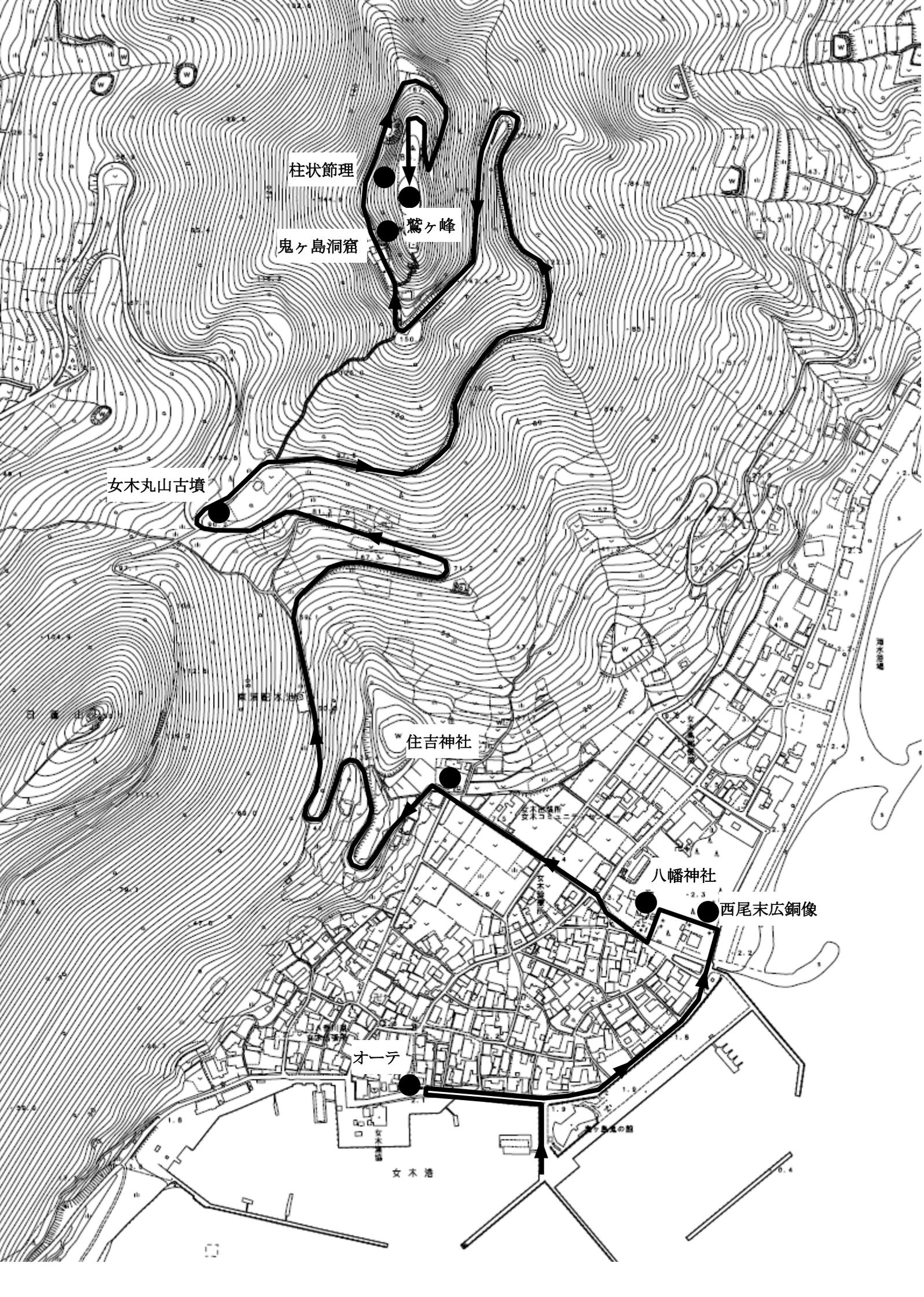
9 鷲ヶ峰

標高一八七メートルの鷲ヶ峰山頂からは瀬戸内海の雄大な景色を望むことができます。南東に屋島、南西に五色台や大槌・小槌、南にサンポート・高松港、北に男木島、北西に直島、北東に小豆島を望むことができます。展望台の周囲は桜が植えられ、春には桜の名所としても知られています。

同地には鷲ヶ峰貝塚、あるいは鷲ヶ峰古墳と呼ばれる遺跡が知られています。弥生終末期の土器が散布しています。

参考文献

- 香川県教育委員会一九八三『新編 香川叢書 考古篇』
香川県神職会一九三八『香川県神社誌 上巻』
高松市歴史民俗協会・高松市文化財保護協会一九九二『高松の文化財』
高松市歴史資料館一九九三『高松市歴史資料館常設展示室』
橋本仙太郎一九三二『鬼無伝説桃太郎さん 鬼ヶ島征伐』



柱状節理

鷲ヶ峰

鬼ヶ島洞窟

女木丸山古墳

住吉神社

八幡神社

西尾末広銅像

オーテ

女木港

10月28日(日) 女木島からの復路

雌雄島海運フェリー

(女木港)

(高松港)

11:20 発 → 11:40 着

13:20 発 → 13:40 着

15:20 発 → 15:40 着



次回のふるさと探訪は・・・

テーマ 津田町の古墳を巡る

とき 平成24年11月25日(日)

9:45～12:00

集合場所 旧鶴羽小学校運動場

講師 松田 朝由(大川広域行政組合職員)

☆広報「たかまつ」11月15日号に開催案内を掲載しますので、ご覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課(TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」)でお知らせします。(電話が通じない場合は、「実施」です。)



★集合場所への交通案内★

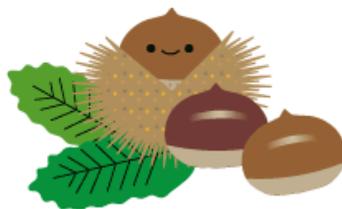
JR 高徳線

高松駅 鶴羽駅

7:18 → 8:17

8:33 → 9:31

「ふるさと探訪」に
参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょ
う。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路
の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょ
う。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょ
う。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気
をつけましょ
う。
- 5 文化財や自然を大切にしましょ
う。